



市民との対話集会（性の多様性を考える）



対話集会とは

「地域の課題は市民の声の中にある。」との考えのもと、現場目線で、施策を推進していくことや、多くの市民の方が、市政やまちづくりを自分事として考え、行動する気運の醸成を図ることを目的として、市民と同じ目線に立ち市政やまちづくりを語り合う場です。

今年度は、次世代の思いを紡ぐ対話集会を2回、テーマ別対話集会を6回開催しています。

テーマ別対話集会～多様な性について考える～

生きづらさを抱えた人（性的マイノリティ）への理解や認識を広げるために、私たち（地域社会）はどうありたいか、できることは何か、行政施策への期待などについて対話を深める。

- 【ゴール】
 - ・性的マイノリティの存在を実感できる
 - ・性的マイノリティに対する情報を受け取る
 - ・自分の思いや、目指すまちの姿が語れる

日 時：11月25日（土）1330～1545（途中15分間の休憩含む）

場 所：フリース舞鶴（中総合会館5F）

参加者：発言者8名（市長除く） 傍聴者12名



主な意見

- ★性はグラデーション、はっきり分けられない
- ★多様性への理解は「まちづくり」や「暮らし」を考える上で重要な視点。
- ★理解するための基礎的な知識は必要（LGBT、SOGI等）
- ★「〇〇が」ではなく、「〇〇も」という発想（当事者を含めたデザイン）
- ★大人と子どもでは視点が違う（制服の男女差の前に、制服自体が必要なのか？）
- ★いろいろな人がいるということを確認することが大切。
- ★今を生きるユースの声に耳を傾けたい。
- ★何もしないのは「平等」ではなく「放置」（合理的配慮）
- ★子どもたちのために理解する土壌を作りたい
- ★「〇〇らしさ」や「〇〇であるべき」からの脱却（同調圧力、思い込みからの解放）
- ★できることからやりはじめたい。
- ★「心理的安全性」を制度やしきみで担保できるはず



